

 評価のポイント

CL- I . 看護実践能力：ケアする力

〔23-1〕小児周手術期の看護の基本

① 小児における手術の特徴と身体面・心理面への影響について説明してください

小児は成長過程にあり、特に低年齢ほど臓器や身体機能が未発達です。そのため、手術に対する耐性が低く、合併症や術後回復に影響を及ぼす可能性があります。特に、全身麻酔による呼吸抑制、低体温、術後の悪心嘔吐時の予測した対応を行っておくことや、慣れない環境下での不安や、疼痛、行動制限に伴うストレスの留意と発達への影響に考慮することが重要です。

② 手術を受ける小児と家族をサポートする手段にはどのような方法があるか、考えてみましょう

小児へのサポートとして、年齢に応じた手術前後の説明は小児の不安を軽減する上で重要です。また、ディストラクション技術（音楽、紙芝居、玩具）や、家族の付き添いも考慮しましょう。家族へのサポートとして、手術の進行や予後について適切な情報を提供し、不安を和らげます。特に長期入院の場合、家族の生活にも大きな影響があるため、家族全体を支援するための体制が必要です。

③ 手術を受ける小児とその家族への看護において身につけておきたい事項とその理由について考えてみましょう

小児は成長発達の途上にあり、身体機能や心理的反応が異なるため、成長発達に関する知識が不可欠です。また、小児と家族への説明やサポートを行う際、年齢や理解度に応じた柔軟なコミュニケーションは、安心感を提供できます。看護師、医師、その他の医療スタッフと連携し、家族全体を医療チームでサポートする体制を築くことで、小児の安全と回復を促進しましょう。